「医学図書館員の教育」と「日本医学図書館協会」

Education of Medical Librarians and the Japan Medical Library Association

東京女子医科大学図書館

阿字川 和 雄*

要約：日本医学図書館協会がこれまでに関与した各種の教育研修事業の歴史の変遷をたどり、さらにこれを一覧表と年表にまとめている。協会主催の研修会のみならず、地区主催研修会の充実を計るべきであることを提案している。(T.I.)

1. はじめに

昨年の10月、主任司書から編集委員会よりの原稿依頼の件で相談をうけ、結局、筆者が腹案もないまま原稿を引き受けることになってしまった。

あとで冷静に考えてみたら、テーマ（協会の在り方）がテーマだけに、この種の原稿は医学図書館員としての豊富な経験と知識を有した人を書いてもらうのが筋だし、編集委員会の意向も存外そんなところにあったのではないだろうかと思うと、筆者のような若造が原稿を引き受けたので、編集委員会としても筆者が執筆者として適しているかどうか一瞬疑ったに違いない。

正直なところ、筆者はこれまで協会に対しては1人の傍観者でしかなかった。たまたま数年前に医学雑誌総合目録欧文編第6版の出版委員として協会の仕事に携ったことはあったが、そのときでも単なるお手伝いさんとしての域を出るものではなかった。

そんな筆者だから、原稿を引き受けたもののさて何を書いたらよいものかと日々思案に暮れていたところ、折しも当館（東女）がこのたび関東地区の評議館に選ばれ、さっそく今年東京で開催が予定される第14回医学図書館員研究集会の準備に係わることになったことから、この機会に協会がこれまで医学図書館員の教育にどのように取り組んできたかを振り返ってみるのも何かの役に立つかと思い筆をとった次第である。

当然のことではあるが、本文の内容は機関誌「医学図書館」、日本医学図書館協会総会議事録、JMLA 会報のなかより関連する記事を拾い出し、再構成したものからなっている。

なお文末には、講習会、研究集会、セミナーなどで話された講義内容を示す〈表1～表6〉と、それらを年代順に編んだ「年表」が付してあるので活用願いたい。

2. これまでの経過

2.1 ロックフェラー財団奨学生

米国ロックフェラー財団の好意で1953年から医学図書館員を対象に毎年5名程度、1人15万円の奨学金が与えられ、奨学生は慶大図書館学科に特修生として1年間通えることになった。

奨学生の資格は、大学、研究所、病院など、医学関係図書館に勤務し、その推せんを経て、協会と慶大の選考委員会の審査を通った者となっていた。

この奨学生制度は、当初1953年から1955年までの3カ年の約束であったが、草間前会長の努力によって1年間延長された。

奨学生の数は、初年度5名、次年度2名、第3年度1名と年々低下し、結局4年間に10名しかこの制度の恩恵を受けることができなかった。このことは図書館に対する当事者の無理解と、現職の司書が職場を1年間離れることの難かしさからきていた。

また奨学生の大半が医学図書館にとどまることなく去っていったことを思うと、この種奨学生制度を有効に運用していくことの難かしさを痛感する。

* Kazuo AJIKAWA : Tokyo Women's Medical College Library

（昭和54年2月6日受理）

2.2 医学図書館研究会

吉岡孝治郎氏の東京を機に、東京地区の医学図書館員有志が集まり、同氏より欧米視察の思い出話をうかがったのが会の始まりである。このときは名称もまだ仮称で、正式に上記研究会の名で活動したのは第2回以降である。

研究会は初年度にあたる1955年に4回、1956年に3回、1957年に5回と計12回行なわれた。

なお1960年には労研で「指定図書について」をテーマに医学図書館研究会が催されているが、これが上記研究会の一連の活動であったかどうかは定かでない。

研究会は東京地区という地域的に限られた活動ではあったが、前述したロックフェラー財団奨学生がけっして成功裡に終わったとはいえなかったことや、研究会が後に述べる「医学薬学図書館講習会」開催の下地になったことなどを考え併せると、研究会が当時果たした役割は大変に大きいものがある。(表1)

2.3 医学薬学図書館講習会

講習会発足までの経緯は、関口昌樹氏が「医学図書館13(2):97-106, 1966」に書いている。

関口氏はそのなかで講習会が協会と日本薬学図書館協議会との共催で行なわれるようになったいきさつに触れはっきりとしたことではないがと前置きしながらも、講習会が共催になった理由として次の3つをあげている。

1つは講習会のプログラムの段階で講師として東大薬学部の伊藤館長及び富山大学薬学部の村上清造氏があげられており、両氏と協会側とで接触があったこと

1つは日本薬学図書館協議会側でも講習会を計画していたこと

1つは文部省から共催ならば後援をしてもよいという返事もらったこと

以上のような事情から、講習会は日本医学図書館協会と日本薬学図書館協議会の共催、文部省後援というかたちで東京での第Ⅰ期(1956~1960)、関西での第Ⅱ期(1961~1965)と延べ10年間にわたって行なわれた。

講習会の主旨は、第1回の経過報告“あとがき”で知ることができる。そこには次の様に書かれている。

本講習会は医薬学図書館員の資質向上を通じて職員の地位確立をはかるため、図書館法による司書養成コースより更に高度の研修制度をつくるテスト・ケースとして実施したが、講習科目も「通論」「実務」「運用法」といった従来的一般講習の形式は一応修了済としてこれを避け、サービスの基礎となる医学薬学専門科

目の解説と関係文献の解題に主眼を置いた。

ここに述べられている主旨は、第1回からその後なんら変わることなく第10回まで連綿と受け継がれた。

この種講習会は常に主催者側、受講者側の双方が問題をかかえながら行なわれるケースが多い。

＜主催者側の問題＞

医薬学専門科目を短時間で講義しようとする、どうしても講師によって内容のバラツキが生じてくる。

＜受講者側の問題＞

1人の受講者が全課程を学ぶことによって始めて講習会の主旨が生きてくるのであるが、1人が5年間受講しつづけることは非常な困難をとまなう。

考えてみるに、医学薬学図書館講習会の開催は当時の情勢がそれを許すだけの素地をもっていたからであって、今後このような講習会が開かれるかどうか筆者にははなはだ疑問に思われる。(表2)

2.4 医学図書館初級セミナー

1962年の33回総会(奈良)において、東大より追加議題として“医学図書館初級セミナー開催後援承認の件”が提出された。

提案理由は、協会加盟館以外の弱い立場にある医学図書館の職員を対象に初級セミナーを2日間開催したい。場所は東大医学図書館、事務及びそれにかかる費用は医学書院で出してくれる。協会としてはすでに医学薬学図書館講習会を催していることでもあり、いまはっきりと協会加盟館以外の人を対象にした初級セミナーを協会主催で行なうことはできないと思うので、協会に後援という名義をいただきたい、という主旨であった。

結局、総会で承認され、初級セミナーは医学書院主催、日本医学図書館協会後援で第1回が1962年に、第2回が1963年に行なわれた。(表3)

2.5 生物科学図書館研究集会

慶大図書館学科では、ロックフェラー財団の援助を得て1962年から3年間、生物科学図書館の現職者を対象に奨学金を設定して長期・短期にわたる特別研修を実施した。また特別研修以外にも毎年7月、東京、大阪で5日間の生物科学図書館研究集会を主催した。

講師には毎年米国より生物科学図書館の専門家を訪問教授として招き、1962年にはワシントン大学医学部図書館長の Brodman 女史、1963年にはコロンビア大学医学部図書館長の Fleming 氏、1964年にはカリフォルニア大学農学部図書館長の Blanchard 氏とつぎつぎに来日され、日本の生物科学図書館の発展に大きな足跡を残

した。(表4)

2.6 医学図書館員研究集会

1956年から日本薬学図書館協議会との共催で行なってきた「医学薬学図書館講習会」も、1965年の第10回をもって幕を閉じた。そこで当然のことながら、1966年以降の研修計画をどう行なっていくかが協会の重要課題として上ってきた。そこで講習会以後の動きを、総会議事録のなかから拾ってみていくと、

1965年の31回総会(東女)において、協議題2として“昭和40年以降3カ年計画で医学図書館員講習会を全国2地区で実施することについて”が中央事務局より提出された。

提案理由は、関西における医薬学講習会5カ年計画が終ったのを機会に、協会主催の下に引き続き医学図書館員のための研究集会を実施したい。ついては全国を2ブロックに分け東北地区と九州地区で実施担当をお願いしたい、という主旨であった。

結局、総会で承認され、「医学図書館員研究集会」が第1回(1966年)から第3回(1968年)まで東西2カ所で行なわれ、東日本集会は東北地区が、西日本集会は九州地区が各々実施分担した。

ついで1968年の39回総会(慈恵)において、協議題4として“昭和43年以降の医学図書館員研修計画について”が中央事務局より提出された。

提案理由は、今後3カ年は、東日本は北海道地区で、西日本は中国四国地区で実施担当をお願いしたい、という主旨であった。

結局、これも承認され、第4回(1969年)から第6回(1971年)までの研究集会が、東日本が北海道地区で、西日本が中国四国地区で開催された。

ついで1971年の42回総会(三重)において、中央事務局より協議題2として“研究集会について”が提出された。

提案理由は、過去第1回から第6回まで医学図書館員研究集会が、東日本が東北地区、北海道地区で、西日本が九州地区、中国四国地区で担当実施され、医学薬学図書館講習会での東京地区、大阪地区を含めると、まだ未開催地の地区が東海地区と北信地区の2地区だけになっているので引き受けてもらいたい、という主旨であった。

また昭和46年度第3回理事会(47年1月21日)で“研究集会については従来の2地区から1地区に絞り、今後は長期研修計画を協会が主体性をもって行なうべきだ”

との意見が出されていたことから、結局、第7回(1972年)の研究集会は東海地区の1カ所だけで行なわれた。

翌1972年の43回総会(大阪)においては、中央事務局より協議題3として“1973年以降の研究集会について”が提出され、そこで、第8回以降の研究集会の在り方については理事会に一任するということが承認された。

これをうけて、昭和47年度第4回理事会(48年1月19日)では吉本教育担当理事から「研究集会実施大綱」の試案が出され、承認された。

その年(1973年)の44回総会(福島)で吉本教育担当理事より、この「研究集会実施大綱」の主旨説明が行なわれた。

それによると、実施大綱は従来の研究集会が開催担当地区、あるいは会場館の知恵と犠牲の上に企画・運営されてきたものを、協会の重要な事業として、協会がより真剣に積極的に取り組む基本方針を示したものである、ということであった。

実施大綱の主な特徴は次の4点である。

- ① 受講生の参加資格を原則として3年未満とする
- ② 受講生は予めレポートを提出、受講後は3カ月以内にペーパーを提出する義務が課せられる
- ③ 3年間単位で東京、大阪で3～4日の日程で開催する
- ④ 必須科目を定め、新人に医学図書館員必須の知識を教える

第8回(1973年)から以降の研究集会は、この実施大綱に沿ったかたちで行なわれてきている。(表5)

2.7 医学図書館員セミナー

中堅の医学図書館員を対象とするセミナーを開催したいという構想は、「研究集会実施大綱」にはっきりと書かれているところから、すでにこの時にあったものと思われる。

セミナーの構想が具体的な動きとして現われたのは、昭和48年度第4回理事会(49年1月23日)の席で、吉本教育担当理事が、セミナーを大阪地区で予定しているといったのがはじめてである。

同年(1974年)、セミナーの構想は実現の運びとなり、「第1回医学図書館員セミナー」が大阪で開かれ、その後毎年7～8月に2日の日程でセミナーが行なわれてきている。

2.8 MEDLARS 検索研修会

この日本科学技術情報センター(JICST)主催による研修会を本稿に載せるべきかどうか、その判断に苦しん

だが、記録として残しておけば後々の参考になるかと思
い敢てここに取り上げてみた。

研修会は JICST 主催ではあったが、協会がメドラー
ス対策委員会を通じて JICST に強く働きかけたおかげ
で、加盟館より多数の医学図書館員が研修会に出席する
ことができた。

研修会開催の直接の契機は、JICST で1972年6月よ
り MEDLARS のサービスを開始したことにはじまる。

研修会は1973年から1975年の3年にわたって JICST
で催され、1975年の5月には広島でも行なわれた。

1976年10月からは、MEDLARS のオンラインサービ
ス文献が JICST で開始された。

これに先だって同年5月には「MEDLARS オンライン
文献検索講習会」が JICST で、また10月には名古屋、
大阪でそれぞれ催された。

3. おわりに

これまで、医学図書館員教育の変遷を協会中心にみて
きたが、協会主催の研究集会、セミナーだけで加盟館職
員の教育が事足りている人は1人もいないだろう。

他に、職員を教育していく方法として、館内研修、数
館が集まっての合同研修、他機関で催す講習会などへの

参加と種々考えられるが、ここは各地区が地区加盟館職
員の研修に本腰を入れて取組んでもらわなければこまる
ところである。

加盟館職員の研修を会則で明記しているのは近畿地区
の1地区だけである。

中国四国地区の会則では、“…育成並に資質向上”と
いう曖昧な表現になっている。

加盟館数最大を誇る関東地区の会則では、協会の事業
に準じた各種の事業を行なう、となっていて研修につい
ては何も述べていない。

しかし、この4年間関東地区では6つの大学が中心と
なって「合同研究会」が催されてきており、6大学以外
にも地区加盟館を対象に広く参加を呼びかけてきた。

最近、関東地区で地区主催のような研修会をやってい
こうではないかという動きがあり、成り行きを見守って
いきたい。

地区主催による研修会が実現すれば、これまで参加し
にくかった館からも参加しやすくなるだろうし、
協会に加盟できないでいる弱い立場の医学図書館に勤務
する職員の教育も可能になってくるだろう。

今後各地区で地区毎の研修会が活発に行なわれていく
ことを期待する。

— 年 表 —

(注) 協一協議題

年 代	研究会, 講習会, 研究集会, セミナー (等)	日本医学図書館協会総会議事録より
1951 (昭26)		22回総会 (熊本) 協17. 医学図書館員の研修及司書資格取得講習 の運営について (徳島)
1952 (昭27)		
1953 (昭28)	第1次ロックフェラー財団奨学生5名を慶大図書 館学科へ	24回総会 (信州) 協9. 図書館職員の再教育について (名大)
1954 (昭29)	第2次ロックフェラー財団奨学生2名	
1955 (昭30)	第3次ロックフェラー財団奨学生1名 2. 21 第1回医学図書館研究会 5. 20 第2回 “ 7. 27 第3回 “ 11. 9 第4回 “	
1956 (昭31)	第4次ロックフェラー財団奨学生2名 2. 10 第5回医学図書館研究会 5. 26 第6回 “ 8. 4—5 第1回医学薬学図書館講習会	

年 代	研究会, 講習会, 研究集会, セミナー (等)	日本医学図書館協会総会議事録より
	11—12	
1957 (昭32)	9. 29 第7回医学図書館研究会 2. 23 第8回医学図書館研究会 4. 19 第9回 〃 7. 6 第10回 〃 8. 26—31 第2回医学薬学図書館講習会 9. 14 第11回医学図書館研究会 12. 7 第12回 〃	28回総会 (群馬) 協17. 医学司書の育成並びに資質向上のために 常置委員会設置の件 (慶応) 協18. 医学図書館司書の講習について (徳島) 協19. 補習講座の制度化に関する件 (事務局) 11委員会医学司書向上育成委員会が設置される
1958 (昭38)	8. 25—30 第3回医学薬学図書館講習会	
1959 (昭34)	8. 24—29 第4回医学薬学図書館講習会	
1960 (昭35)	2. 20 労研の医学図書館研究会 8. 8—12 第5回医学薬学図書館講習会	
1961 (昭36)	8. 21—26 第6回医学薬学図書館講習会	32回総会 (東大) 16委員会 医学司書向上育成委員会 →医学司書育成委員会と改称
1962 (昭37)	7. 9—13 第1回生物科学図書館研究集会 (東京) 23—27 〃 (大阪) 8. 20—25 第7回医学薬学図書館講習会 12. 3—4 第1回医学図書館初級セミナー	33回総会 (奈良) 追加議題3. 医学図書館初級セミナー 開催後援承認の件 (東大)
1963 (昭38)	7. 8—12 第2回生物科学図書館研究集会 (東京) 22—26 〃 (大阪) 8. 5—10 第8回医学薬学図書館講習会 11. 29—30 第2回医学図書館初級セミナー	
1964 (昭39)	7. 6—10 第3回生物科学図書館研究集会 (東京) 7. 20—24 〃 (大阪) 8. 24—29 第9回医学薬学図書館講習会	35回総会 (広島) 16委員会 医学司書育成委員会は解消となり新 たに教育及び制度委員会が発足
1965 (昭40)	8. 23—28 第10回医学薬学図書館講習会	36回総会 (東女) 協2. 昭和40年度以降3カ年計画で医学図書館 員講習会を全国2地区で実施することに ついて (事務局)
1966 (昭41)	8. 29—31 第1回医学図書館員研究集会 西日本集会 9. 28—30 〃 東日本集会	
1967 (昭42)	8. 23—25 第2回医学図書館員研究集会 東日本集会 28—30 〃 西日本集会	
1968 (昭43)	9. 25—27 第3回医学図書館員研究集会 西日本集会 10. 16—18 〃 東日本集会	39回総会 (慈恵) 協4. 昭和43年以降の医学図書館員研修計画に ついて (事務局)

年 代	研究会, 講習会, 研究集会, セミナー (等)	日本医学図書館協会総会議事録より
1969 (昭44)	7. 23—25 第4回医学図書館員研究集会 東日本集会 9. 3—5 〃 西日本集会	
1970 (昭45)	8. 19—21 第5回医学図書館員研究集会 東日本集会 9. 2—4 〃 西日本集会	
1971 (昭46)	8. 4—6 第6回医学図書館員研究集会 東日本集会 9. 1—3 〃 西日本集会	42回総会 (三重) 協2. 研究集会について (事務局)
1972 (昭47)	8. 29—31 第7回医学図書館員研究集会	43回総会 (大阪) 協3. 1973年以降の研究集会について (事務局)
1973 (昭48)	3. 26—31 第1回 MEDLARS 検索研修会 8. 22—24 第8回医学図書館員研究集会	44回総会 (福島) 「研究集会実施大綱」を明らかにして, 昭和47 年度および昭和48年度以降の研究集会はこれに 基づいて実施することになった。
1974 (昭49)	1. 28—30 第2回 MEDLARS 検索研修会 7. 11—12 第1回医学図書館員セミナー 8. 28—30 第9回医学図書館員研究集会	
1975 (昭50)	1. 27—28 第3回 MEDLARS 検索研修会 6. 27 〃 (広島) 7. 17—18 第2回医学図書館員セミナー 8. 27—29 第10回医学図書館員研究集会	
1976 (昭51)	5. 4—6 第1回 MEDLARS オンライン文献 検索講習会 7. 15—16 第3回医学図書館員セミナー 8. 18—20 第11回医学図書館員研究集会 10. 5 MEDLARS オンライン文献検索講 習会 (名古屋) 10. 26 〃 (大阪)	
1977 (昭52)	7. 21—22 第4回医学図書館員セミナー 8. 24—26 第12回医学図書館員研究集会	
1978 (昭53)	8. 3—4 第5回医学図書館員セミナー 8. 23—25 第13回医学図書館員研究集会	

＜表1＞ 医学図書館研究会

(会 場)	主 内 容	参加
1 回 (東大?)	吉岡孝治郎 (東北) — 英米の医学図書館事情	14名
2 (慶 応)	協会発行「医学と図書館」批判	32名
3 (医師会)	関口昌樹 (東医) — 相互貸借についての実態調査 小林 胖 (慈恵) — 医学図書分類について	20名
4 (公 衆)	吉岡孝治郎 (東北) — 私の歩んだ道	?
5 (医 歯)	?	30名
6 (順 天)	津田良成 (慶応) — 医学図書館専門司書の教育 L. F. Davis (TAH) — //	30名
7 (日 大)	小林 胖 (慈恵) — 印刷術に関する新刊紹介	20名
8 (慈 恵)	小林 胖 (慈恵) — 雑誌総合目録について 杉本良一 (慈大教授) — 生理学文献解説	?
9 (東 女)	関口昌樹 (東医) — 分類 (Med Lib Handbook 解説) 共同研究 — 製本の準備過程	20名
10 (日 医)	雨宮祐政 (医歯) — 物品管理法解説 図書館用語について	?
11 (406 部隊)	Miss Ethell (406部隊) — National Library of Medicine 及び最近のアメリカ医学図書館の発達について	?
12 (東 邦)	横堀 栄 (東邦大教授) — 公衆衛生学講座	?

＜表4＞ 生物科学図書館研究集会

1 回	講師 E. Brodman 1. 生物科学序説 2. 参考文献 3. 定期刊行物 4. 館員のオーガニゼーション 5. 人事管理
2 回	講師 T. R. Fleming 1. 生物科学図書館資料の特性 2. 生物科学者の情報収集法 3. 生物科図書館員の教育 4. 効果的利用のための資料の配置 5. 生物科学図書館の管理
3 回	講師 J. P. Blanchard 1. 生物科学資料の特性 2. 資料の評価と収集 3. 生物科学図書館における書誌活動 4. 生物科学資料の組織 5. 生物科学図書館の管理

＜表3＞ 医学図書館初級セミナー

(会 場)	内 容
第1回 (東大) 200名	1. 医学図書館概説 (東大助教授 裏田武夫) 2. 医学参考文献 (慶応 津田良成) 3. 医学資料の整理 (東大 今村, 植松) 4. 医学図書の運用 (慶応 福留孝夫)
第2回 (東大) 54名	同 上

＜表6＞ 医学図書館員セミナー

(開催地)	テ ー マ	参加
1 回 (大阪)	目録に関する諸問題	26名
2 (新潟)	医学図書館間の相互協力	21名
3 (岐阜)	参考業務について	23名
4 (仙台)	文献情報サービス	25名
5 (岡山)	日常業務の見直しとその対応	27名

＜表2＞ 医学薬学図書館講習会

(会 場) 参加者	講 義 内 容			
	医学学概論・文献	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
第1回 (慶応) 60名	薬学 (東大教授 伊藤四十二) (富山大助教授 村上清造) 細菌学 (慶大教授 牛馬大蔵) (慶大司書 津田良成) 医学文献利用法 (慶大講師 浅野誠一)	図書館管理法 (パネルディスカッション)	医学参考図書解題 (慈恵 小林 胖) (東大 石川智恵子) 医学索引及び抄録雑誌解題 (慶応 海老原正雄)	目録・分類 (小林 胖) 閲覧業務 (東医 関口昌樹) P. R. (日大 堀 敬三) 文献複写 (小林 胖)
第2回 (共立薬大) 70名	薬剤学 (東大教授 堀岡正義) 外科学 (医歯大助教授 長光光太郎) 癌 (医歯大教授 太田邦夫) 生理学 (慈大教授 杉本良一) アイソトープ (東大薬 鶴藤 丞) 薬化学 (共立薬大教授 吉岡一郎) 分析化学 (千葉大教授 坂口武一)		薬学文献検索法 (富山大 村上清造) Beilstein 文献探索 (村上 清造) Chemical Abstracts (JICST 小林 胖) QCIM (順天 村上 弘) 論文及び書誌作成法 (東医 関口昌樹) 医学中央雑誌 (日大 堀 敬三) 薬局方 (横沢)	複 写 (小林 胖)
第3回 (慶応) 63名	衛生学 (東邦大教授 横堀 栄) 生薬学 (東大教授 柴田兼二) 産婦人科学 (医歯大助教授 斎藤 幹) 生化学 (共立薬大 宮本貞一) 解剖学 (順大教授 椿 宏治) 結 核 (慈恵 関口昌樹)	図書館学通論 (医歯 雨宮祐政)	Beilsteins Handbuch (富山大 村上清造) Excerpta Medica (順天 村上 弘) Current List of Med. Literature (関口 昌樹) Reference Note (Handbuch 類) (雨宮祐政) 化学辞書便覧類解題 (東大 佐藤英子)	件名目録 (村上清造) (津田良成)
第4回 (東京薬大) 56名	薬学専門用語解説 (富山大 村上清造) 医学専門用語解説 (慈恵 関口昌樹) 循環器 (女子医大教授 広沢弘七郎)	大学管理法 (医歯 雨宮祐政) 専門図書館管理法 (関口昌樹) 専門図書館の本質論 (関口昌樹) (佐藤英子)	Handbuch 類解説 (順天 村上 弘) 便覧類解説 (雨宮祐政) 参考図書の総合的利用法 (村上 弘) 専門書誌利用法 (JICST 小林 胖)	

	医薬学概論・文献	医学図書館の管理	Reference work.	医学図書館実務
	内分泌 (女子医大教授 小山良修) 病理学 (東医大教授 大高祐一) 麻 酔 (慶大助教授 天野道之助) 衛生裁判化学 (東大教授 浮田忠之進) 薬物学 (日大教授 小沢 光)			
第 5 回 (東大) 65名	小児科学 (日医大教授 木田文夫) 精神医学 (順大教授 懸田良躬) 皮膚科学 (東医大教授 北村包彦) 解剖学 (医歯大教授 新島迪夫) 無機化学 (東大教授 岡本敏彦) 薬理学 (東邦大助教授 伊藤隆太) 物理化学 (東邦大助教授 北原文雄) 薬品製造学 (東大教授 山田俊一)	現代図書館学の動向 (慶大教授 中村初雄) 特殊専門図書館の資料構成 (癌研 細木朗子)	参考業務 (慶 応 栗田 重) (富山大 村上清造)	雑誌整理法 (医歯 雨宮祐政)
第 6 回 (阪大) 100名	解剖学 (阪市大教授 鈴木 清) 薬 学 (岐薬大教授 中沢浩一) 生理学 (阪大助教授 松本淳治) (阪医大助教授 寛道幸男) 生化学 (阪大教授 坂本幸哉) (寛道幸男) 病理学 (京大教授 岡本耕造) 細菌学 (神戸医大教授 堀田 進)	Planning of Modern Library (阪大 藤井和夫)	Beilsteins Handbuch の 解説と利用 (富山大 村上清造) 医学薬学関係索引, 抄録誌 の解説と利用 (奈医大教授 中馬一郎) 文献検索法 (塩野義 大岡忠明)	件名目録 (奈良 上野 先) (神戸 江崎 正)
第 7 回 (京大) 77名	内科学 (京大助教授 鷹津 正) 外科・整形外科 (京大助教授 木村忠司)		抄録・索引誌の性格と利用 —化学を中心として— (阪工大講師 横井時重)	図書目録法の諸問題 (尼崎図書館 山下 栄)

	医薬学概論・文献	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
	薬化学 (京大教授 鈴木友二) 衛生・公衆衛生学 (京大教授 西尾雅七) 本草書誌学 (塩野義 岡西為人)			索引と索引法 (阪市立図書館 森 耕一)
第8回 (神戸医大) 60名	臨床医学 (神戸医大教授 辻 昌三) 分析化学 (神戸女薬教授 月田 潔) 放射線医学 (神戸医大教授 橋本和之) 耳鼻咽喉科学 (神戸医大教授 浅井良三) 法医学 (京大教授 上田政雄)		Reference の機能と方法 (東大助教授 裏田武夫) Reference tool の解説と 演習 (慶応 津田良成)	
第9回 (神戸大) 43名	小児科学 (神戸大教授 児島喜八郎) 臨床抗生物質 (神戸大教授 小林 稔) 皮膚科学 (神戸大教授 佐野栄春) 生薬学 (阪大助教授 高橋真太郎) Medical Terminology (神戸大講師 金子敏輔) 眼科学 (神戸大教授 井街 譲)		文献検索の機械化 (慶大教授 藤川正信) Reference tools の解説・ 演習 (慶応 津田良成)	
第10回 (京大) 60名	細菌・ウイルス及び免疫学 (京大教授 尾崎良克) 歯科学 (京大教授 美濃口玄) 産婦人科学 (京大教授 西村敏雄) 脳神経医学 (京大教授 村上 仁) 物理化学 (京大教授 大崎健次) 臨床検査法 (京大 富田 仁) 薬理学 (京大教授 高木博司) 薬剤学及び公定書 (京大 掛見喜一郎)	資料構成法 (京都薬大 徳岡暁正)	高次資料について (大日本製薬 藤本理平) 速報誌について (武田薬品 伴 彰一) 特許商業文献 (日本新薬 片岡 宏) Reference tool の解説・演 習 (岐薬大 中沢浩一)	

〈表5〉 医学図書館員研究集会

(会 場) 参加者	講 義 内 容			
	医学トピックス	Medical terminology	医学図書館一般	医学図書館の管理
東日本 (東北大) 40名 第1回 西日本 (九大) 14名			医学図書館最近の動 向 (慶応 津田良成) 医学図書館への期待 (福島医大教授 星島啓一郎)	図書館機能と建築 (東大助教授 真田武夫) 建築プランの実際 (東北 長尾公司)
			ドキュメンテーションと 大学図書館の使 命 (九大教授 高田勝) 医学研究者の情報取 集と医学図書館への 期待 (九大教授 田中潔)	医学図書館運営論 (九大教授 倉恒匡徳)
東日本 (東北大) 40名 第2回 西日本 (熊本大) 19名			米国大学図書館の印 象 (東北大教授 金谷 治) 医学図書館最近の動 向 —MEDLARS を中 心に— (慶応 津田良成)	
			医学研究者の立場か らみた図書館 (熊本大教授 鹿子木敏範)	医学図書館における分類の諸 問題—NLM— (九大 沙藤隆茂) 医学図書館における分類目録 の諸問題—NDC— (長崎 相良候秀)
				Chemical Abstracts (東北大助教授 合屋周次郎) 医学図書館における レファレンスサービ ス (長尾公司)
				相互貸借について (九大 牛房忠雄) 閲覧貸出業務の諸問題 (長崎 前田正三)
				レファレンスサービ ス序論 (九大 山川幸雄) レファレンスサービ スと整理業務 (熊本 井手伸夫) レファレンス演習 (九大 沙藤隆茂)
				電子計算機作成の2 次資料利用上の問題 点 (東北 長尾公司)
				Technical Service の機械化 (慶応 津田良成) Technical Service の機械化 の実際—PHILSOM— (慶応 福留孝夫)

医学トピックス	Medical terminology	医学図書館一般	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
					<p>医学図書館における件名目録の諸問題—MeSHの利用をめぐって— (九大 福永寿夫)</p> <p>医学図書館における件名目録の諸問題—件名作業— (沙藤隆茂)</p> <p>医学図書館における Technical Services の機械化—アメリカの場合— (神戸 渋谷喜雄)</p> <p>逐次刊行物の整理 (熊本 井手伸夫)</p>
<p>東日本 (東北大) 48名</p>		<p>医学図書館への期待 (東北大学教授 金谷 治)</p> <p>アメリカ医学図書館の動向—機械化— (東北 長尾公司)</p>		<p>Index Medicus の Subject Heading (MeSH) の構造分析 (慶応 松村多美子)</p> <p>図書館からみた MeSH 及びその使用方法 (慶応 福留孝夫)</p> <p>IM および MeSH の実習 (東北 長尾公司)</p> <p>医学文献情報探索の方法と実際 (東北 遠藤哲郎)</p> <p>新資料紹介 (pandex) (東北 小野和夫)</p>	
第3回		<p>医学研究者の情報収集と図書館の機能—研究者の立場から— (長崎大学教授 佐藤謙助)</p>	<p>総合大学における図書館機構に占める医学図書館の位置ならびにその機能—中央図書館との関係— (熊本 井手伸夫)</p>	<p>医学図書館における文献情報サービスの動向—メドラーズと日本の医学図書館の将来— (慶応 津田良成)</p>	<p>医学図書館における図書目録の形態について (河田政雄)</p>

	医学トピックス	Medical terminology	医学図書館一般	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
西日本 (長崎大) 18名				——教室図書館なら びに他の研究図書館 との関係を中心に (長崎 前田正三) 経営分析的方法と図 書館運営—図書館業 務のコスト・コント ロールについて (徳島 河田政雄) ——九大医学図書館 白書を中心に (九大 中野国浩)	実例を中心とした医 学文献探索の方法・ 演習 (神戸 渋谷喜雄)	
東日本 (札幌医大) 58名		Medical Term の 解説 (札幌医大助教授 高橋杏三)		医学図書館における 職員研修の方法 (慶応 津田良成)		NLM Medical Subject Hea- ding 及び同 Tree Structure の解説—件名作業のトウル — (慶応 松村多美子) 件名作業の実際 (札幌 三浦迪彦) 貸出業務の機械化 (小樽商大 古瀬大六)
第4回 西日本 (徳島大) 48名	医学のあゆみと文献 世界に誇る江戸時代 日本人の医学的業務 (元徳大 福島義一)	Medical Term の 解説 (徳大講師 山下彦王)	医学図書館について の問題 (徳大教授 四方一郎) 医学図書館の動向 (事務局長 裏田武夫)		Index Medicus と NLM MeSH につ いて (ABCC 湊 泰子)	定期刊行物の概論; 実務を中心とした定期刊行物 の受入整理 (国会図書館 金村 繁) 定期刊行物受入整理の機械化 (神戸 江崎 正)
東日本 (北大) 62名			コンピュータ概論 (日立製作所 岡田雅彦)		医学文献情報と二次 資料の動向 (東大助教授 裏田武夫)	図書館業務の機械化 ——東大の例— (東大 今村慶之助)

	医学トピック	Medical terminology	医学図書館一般	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
第5回 西日本 (岡山大) 71名	古医書について (岡山大教授 中山 沃) 日本解剖学・生理学 計数の解説 (岡山大助教授 安田浩士)		医学図書館の機械化 の展望 (神戸 江崎 正)		情報検索と機械化の 問題点 (慶応 津田良成)	図書館業務の機械化 —慶大の例— (慶応 石川徹也)
					世界における医学 2 次文献の動向 (真田武夫) Chemical Abstracts の解説とその使い方 について (岡山大助教授 大森晋爾) Biological Abstracts— (神戸 渋谷喜雄) Index Medicus, 医 学中央雑誌—— (岡山 加藤正義)	医学分野における UDC の適 用性について (安田浩士)
東日本 (札幌医大) 51名				図書館業務現状分析 の手法 (東洋レーヨン 井手 翁) ルーティンワークの 総点検 (国がん 本田品子)	Index Medicus の 使い方 (慶応 松村多美子)	図書館の利用指導 (奈良 吉本瑞応) 冊子目録上の諸問題 (北海道岡大 木田橋喜代慎)
					逐次刊行物 (特に不定期刊行 物および Supplement 類) の 受入・整理・配架上の諸問題 (社会調査研究所 青木孝雄)	
第6回 西日本 (広島大) 60名	西洋と東洋の医学史 考 (広大教授 西並和義) 生化学概論 (広大教授 奥田九一郎)			医学図書館員の Con- tinuing Education について (慶応 松村多美子)	Index Medicus の 手引き (松村多美子) 医学中央雑誌の手引 き (阪大 徳村泰弘)	医学図書館員のための目録業 務について (九大 福永寿夫)

	医学トピック	Medical terminology	医学図書館一般	医学図書館の管理	Reference work	医学図書館実務
	病理学について (<u>広大教授</u> 山田 明)			Handbook of Medical Library Practice. 3rd ed. 1970 解説 (広大 松川 宏) 図書館業務ルーティンワークの諸問題 (デイスカッション) (司会 屋間逸郎)	文献検索の実際 (松村, 徳村)	
第7回 (公立学校 共済玉山 会館(名 古屋)) 90名	公害と医学図書館 (<u>名市大教授</u> 奥谷博俊)			自然科学図書館のあり方と職員の仕事 (<u>名大教授</u> 保田幹男) 近代図書館の構想について—資料の配架を含めて— (<u>名大助教授</u> 柳沢 忠)	洋雑誌の略名と解釈 (齋研 溝口歌子)	図書館の庶務—図書の発注から会計処理まで— 〔事例発表〕 (司会 岩井 昭三 (鳥取)) (発表 森 一雄 (岐阜)) (助言 水谷 武 (名市大)) 天野 義雄 (慶応) 整理業務について (単行本) —受入から配架まで— 〔パネルディスカッション〕 (司会 安藤 正信 (三重)) (発表 野村 佳弘 (岐阜)) 中川 佳子 (三重)) 松井 潔 (愛知学院)) 整理業務について (雑誌) (司会 岩井 昭三) (発表 林 源司 (愛がん)) (助言 遠藤 哲郎 (東大)) カウンタ—業務について 〔事例発表〕 (司会 藤田喜代治 (名大)) (発表 中村吉夫 (日大松戸)) 谷敷 和子 (名大)) 助言 門田 泰典 (阪大))

(これより「研究集会実施大綱」に基づいた講義内容となる)

第8回 (東大) 70名	医学の最近の動き 医学の動向 (女子栄義大教授 秋山辰雄)	Medical terminology わが国の医学用語に 付随する2, 3の問 題について (東大助教授 阪田 隆)	医学図書館員 最新のトピック 医学情報のネットワ ーク (慶大教授 津田良成)	Medical librarianship 協会の組織活動 (鳥取 岩井昭三) Medical Librarianship (奈良 吉本瑞応) 医学図書館員のため の調査研究 (慶応 天野善雄)	Reference work 参考業務 (東大助教授 長沢雅男) 医学図書館における 参考業務 (慶応 関口昌樹) 二次資料の使い方 (昭和 板橋瑞夫) Reference tools の 解説 一医学関連領域一 (北里 松浦 剛)	医学図書館実務 逐次刊行物 (東医 菅 利信) 学術雑誌の発注, 受入, 製本, 図書の整理, 目録, 編集の機 械処理 (東大 今村慶之助)
第9回 (東大) 58名		MeSH の用語につ いて (図短大助教授 松村多美子)	最近のトピック (慶大教授 津田良成)	協会の組織活動 (慶応 天野善雄) Medical Librarianship (慶大教授 沢本孝久) 医学図書館員の調査 研究法 (慈恵 磯部重治)		逐次刊行物の取扱い 1. 基礎コース (東医 菅 利信) 〃 〃 今井 義訓 〃 〃 佐藤 和貴 2. 整理コース (東大 遠藤 哲郎) 〃 〃 森田 和夫 〃 〃 沢井 清 3. 運用コース (昭和 板橋 瑞夫) (慶応 小川 治之)
第10回 (東大) 49名	医学界のトピック (女子医大教授 碓井 靖久)		最近のトピック (慶大教授 津田良成)	協会の組織活動 (慶応 天野善雄) Medical Librarianship (奈良 吉本瑞応) 医学図書館員の調査 研究法 (東医 菅 利信)		逐次刊行物 1. 基礎コース (東医 今井 義訓) 〃 〃 殿崎 正明 2. 整理コース (自治 青木 孝雄) 〃 〃 高橋 伸夫 3. 運用コース (慶応 小川 治之) 〃 〃 高野 史子

医学の最近の動き	Medical terminology	医学図書館員 最新のトピック	Medical librarianship	Reference work	医学図書館実務
<p>医学界のトピックス (神戸大教授 石神襄次)</p> <p>第11回 (神戸大) 44名</p>		<p>やぶにらみに眺めた医学図書館の財政難 (神戸大助教授 村上 宏)</p>	<p>協会の組織活動 (阪大 木本明男) Medical Librarianship (奈良 吉本瑞応) 医学図書館員の調査 研究法 (神戸大教授 岡本彰祐)</p>	<p>参考図書総論 (京大 岩本 博) Index Medicus の 解説 (阪大 尾崎一雄) Excerpta Medica の 解説 (阪市大 木下順一) Biological Abstracts の解説 (阪大 宮岸朝子) Chemical Abstracts の解説 (神戸大助教授 村松 喬)</p>	
<p>第12回 (阪 大) 54名</p>		<p>医学教育と図書館 (阪大助教授 中川米造) 医学研究者からの図 書館への期待 (阪大教授 中馬一郎)</p>	<p>協会の組織活動 (阪大 木本明男) Medical Librarianship (京大 近藤禎男)</p>	<p>医学図書館資料論 (奈良 広井 聡) Index Medicus の 解説 (兵庫 井出唯敬) (阪大 今井義雄) Excerpta Medica の 解説 (阪 大 山口直比古) (阪市大 木下 順一)</p>	
<p>海外生活の思い出 (京大教授 星野一正)</p> <p>第13回 (京 大) 48名</p>			<p>協会の組織活動 (阪大 木本明男) Medical Librarianship (京大 近藤禎男)</p>	<p>医学図書館資料論 (奈良 広井 聡) 医学情報とオンライン 検索サービス (京大 岩本 博) Index Medicus の 解説 (阪市大 伊藤淑子) (阪市大 木下順一) Excerpta Medica の 解説 (兵庫 井出唯敬) (阪大 宮岸朝子)</p>	